

中高生による地域課題チャレンジプロジェクト ～やってみたいことを実現する！～

こども家庭庁の発足をきっかけに、政策に子どもの声を反映させる試みが各地で始まっています。しかし、なかなか子どもたちのリアルな「声」を聴くことができません。

そこで阪神南県民センターは、阪神南地域（尼崎市、西宮市、芦屋市）に住んでいる、又は学校に通っている中高生自らが身近な地域課題を発見し、具体的な政策を立案、プレゼンテーションを行うことにより、自分たちの住んでいる地域への関心を高めることを目的とする政策立案チャレンジを実施します。

記

1 内容

中高生が学校生活や普段の生活の中で、「こんなことができないか、やってみたいな」「なぜできないのだろう？」「どうすればできるのだろう」ということを話し合い、ワークショップの実施、政策提言の専門家からアドバイスを受けながら、自治体職員も交えて考察し、それらを地域社会の課題として解決をするための政策を立案し、提言を行う。

2 日時

- ・ 9月 1日（日）：Day1／プロジェクトキックオフ・チーム組成・課題発見・仮説立案
- ・ 9月 8日（日）：Day2／チーム別に地域フィールドワーク
- ・ 10月 6日（日）：Day3／経済産業省のゲストを迎えて、兵庫県・尼崎市・西宮市・芦屋市の職員と共に、政策立案チャレンジ
- ・ 10月 20日（日）：Day4／プレゼンテーション作成
- ・ 11月 16日（土）：阪神地域みらいづくりフォーラムにて発表

3 場所

- ・ Day1(9/1)～Day4(10/20) 武庫川女子大学等（予定）
- ・ 阪神地域みらいづくりフォーラム(11/16) 尼崎アルカイクホール・ミニ（尼崎市昭和通 2-7-16）

4 中高生募集 25名

5 詳細 阪神南県民センターホームページより

6 実行委員会

事業の実施に先行して組成されたコアメンバー

- 芦屋市内中学に通学する中学3年生女子2名
- 西宮市内高校に通学する高校2年生男子
- 尼崎市内高校に通学する高校3年生男子、高校1年生男子

7 講師・アドバイザー

- ・ 小木曾 稔氏（政策渉外ドゥタンク・クロスボーダー 代表取締役）
1994年運輸省（現・国土交通省）入省。2006年楽天に入社。12年の新経済連盟の活動開始より政策部部長として政策提言作成業務に従事。現在、東京都デジタルサービスフェローも務める。Forbes JAPAN誌「日本のルールメーカー30人」選出。
- ・ 水口 怜斉氏（経済産業省ヘルスケア産業課課長補佐）
経済産業省に入省し、スタートアップ支援や起業家育成、2025年大阪・関西万博関連業務、10兆円規模の大学ファンドの立ち上げに従事。現在は医療・福祉・健康分野を横断したヘルスケア産業の振興を担当。その他、政策版デザインスクール「Policy Design School」や、日本の行政にデザインアプローチを導入することを目指す「JAPAN+Dプロジェクト」の立ち上げに尽力

8 実施 特定非営利活動法人リベルタ学舎（阪神南県民センター委託事業）